

調査結果の概要

第1 人口

1 本県の状況

(1) 人口

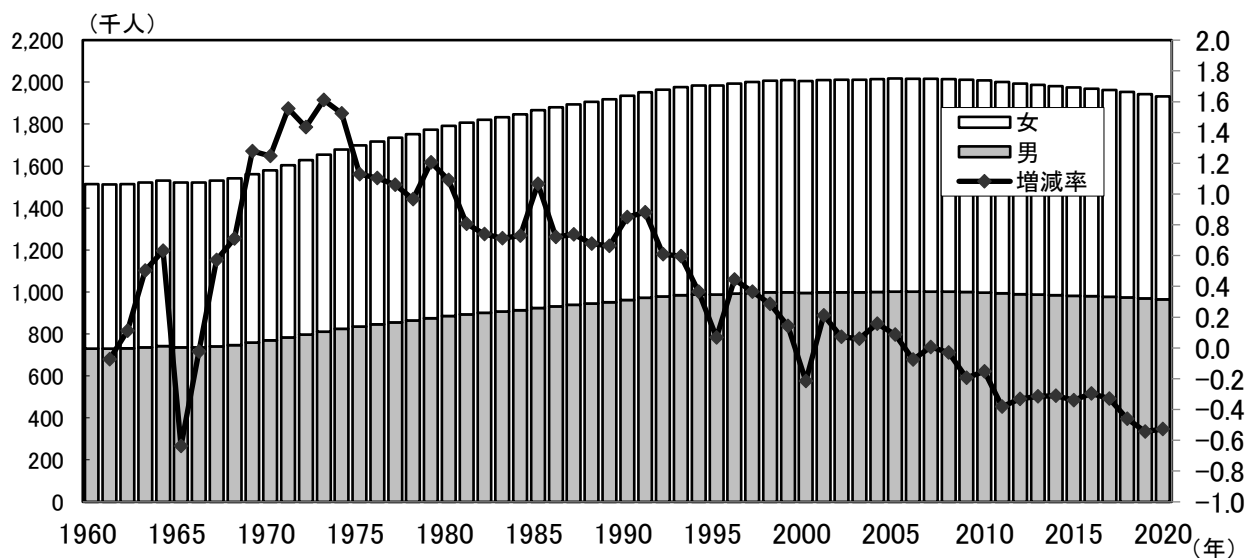
令和2(2020)年10月1日現在の本県の総人口は1,932,091人(男965,177人、女966,914人)で、令和元(2019)年10月1日現在に比べ10,222人の減少(男4,381人減、女5,841人減)、対前年増減率は▲0.53%(男▲0.45%、女▲0.60%)となった。(表1、図1、統計表第1・2・3表)

表1 令和元(2019)年10月～令和2(2020)年9月中の人口増減

(単位：人)

| 区 分 | 総 数 | 男 | 女 |
|-------------|-----------|---------|---------|
| 令和元年10月1日現在 | 1,942,313 | 969,558 | 972,755 |
| 出 生 | 12,261 | 6,368 | 5,893 |
| 死 亡 | 21,840 | 11,126 | 10,714 |
| 自然増減(①) | ▲9,579 | ▲4,758 | ▲4,821 |
| 転 入 | 68,249 | 38,685 | 29,564 |
| 転 出 | 68,892 | 38,308 | 30,584 |
| 社会増減(②) | ▲643 | 377 | ▲1,020 |
| 人口増減(①+②) | ▲10,222 | ▲4,381 | ▲5,841 |
| 令和2年10月1日現在 | 1,932,091 | 965,177 | 966,914 |

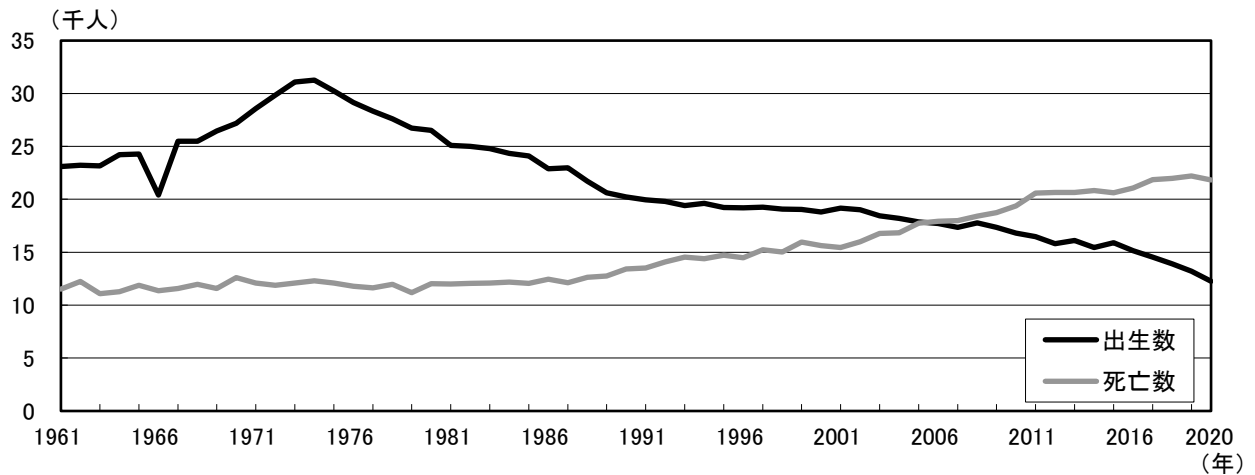
図1 総人口及び対前年増減率の推移(昭和35(1960)年～令和2(2020)年)



(2) 自然動態(令和元(2019)年10月1日～令和2(2020)年9月30日)

自然動態は、9,579人の減少(対前年増減率▲0.49%)で、減少幅は前年(8,984人)に比べ595人増加した。内訳をみると、出生数は12,261人(対前年962人減)、死亡数は21,840人(対前年367人増)で、調査開始以来、出生数は過去最少となった。(図2、統計表第1・3表)

図2 自然動態の推移



(3) 社会動態 (令和元(2019)年10月1日～令和2(2020)年9月30日)

社会動態は643人の減少(対前年増減率▲0.03%)で、前年(1,629人減少)に引き続き3年連続の減少となった。内訳をみると、転入数が68,249人(対前年6,109人減)、転出数が68,892人(対前年7,095人減)で、3年連続の転出超過となった。(図3、統計表第1・3表)

このうち、県外の転入・転出については、県外からの転入は42,159人(転入全体の61.8%)、県外への転出は41,641人(転出全体の60.4%)で、518人の転入超過(国内3,142人の転出超過、国外3,660人の転入超過)となっている。都道府県別では、転出者数、転入者数とも関東地方の都県が上位を占めており、転出超過となっている。(表2・3、統計表第7表)

次に、県外転入・転出者を年齢(5歳階級)別にみると、転入で最も多いのは20～24歳(9,162人)で、次いで25～29歳(8,628人)だった。転出では20～24歳(9,880人)、25～29歳(8,623人)の順であった。転入超過数についてみると、40～44歳が266人で最も多く、転出超過数では20～24歳が718人で最も多かった。(図4、統計表第8表)

図3 社会動態の推移

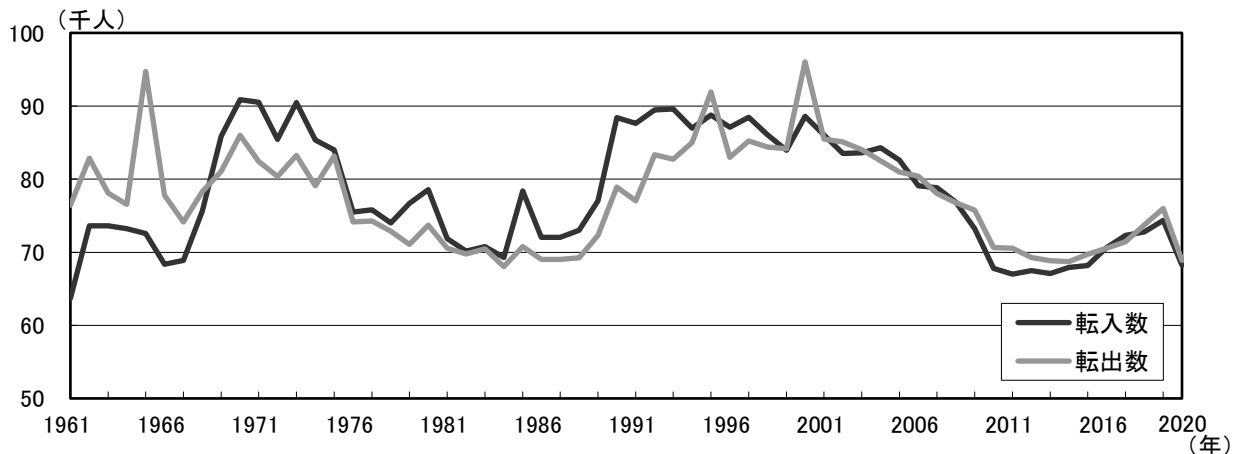


表2 県外からの転入者数・県外への転出者数(地域別)

(単位:人)

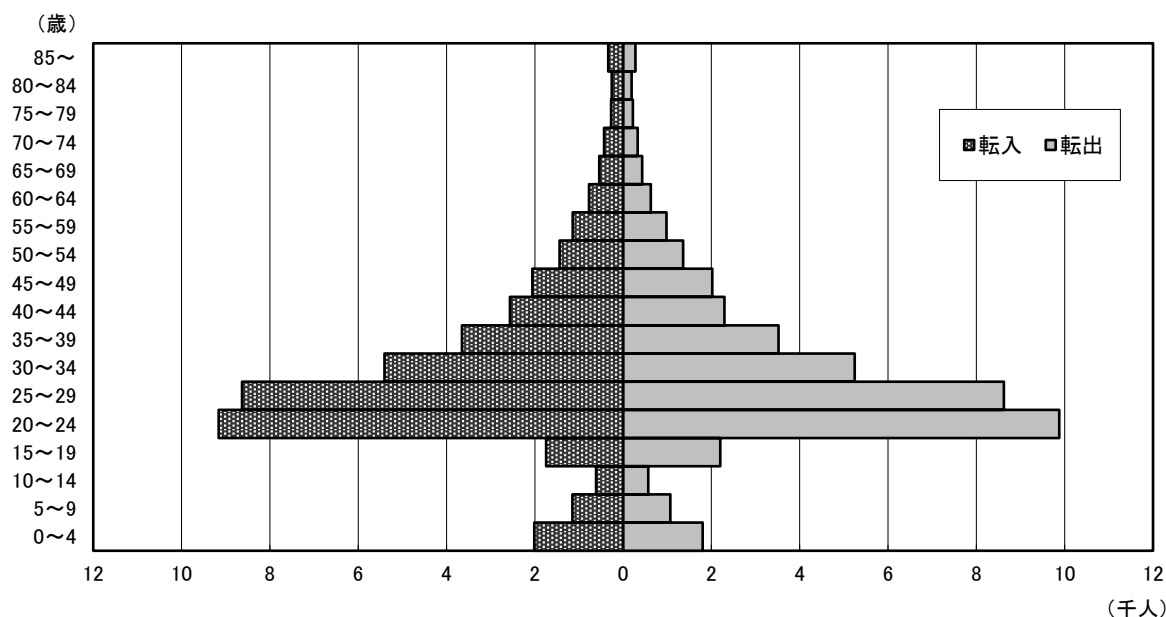
| 地域 | 総数 | 北海道 | 東北 | 関東 | 中部 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 | 国内 | 国外 |
|-----|--------|-----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 転入者 | 42,195 | 644 | 3,616 | 23,072 | 3,752 | 2,047 | 888 | 1,341 | 35,360 | 6,799 |
| 転出者 | 41,641 | 718 | 2,970 | 27,347 | 3,482 | 2,063 | 703 | 1,219 | 38,502 | 3,139 |
| 増減 | 518 | ▲74 | 646 | ▲4,275 | 270 | ▲16 | 185 | 122 | ▲3,142 | 3,660 |

表3 県外からの転入者数・県外への転出者数（上位5都道府県）

（単位：人）

| | 転入者数 | | 転出者数 | | 転出超過数 | |
|---|------|-------|------|-------|-------|---------|
| | 都道府県 | 人数（人） | 都道府県 | 人数（人） | 都道府県 | 人数（人） |
| 1 | 東京都 | 5,894 | 東京都 | 7,257 | 埼玉県 | ▲ 1,719 |
| 2 | 埼玉県 | 4,838 | 埼玉県 | 6,557 | 東京都 | ▲ 1,364 |
| 3 | 茨城県 | 4,001 | 茨城県 | 3,836 | 神奈川県 | ▲ 802 |
| 4 | 群馬県 | 2,936 | 神奈川県 | 3,695 | 群馬県 | ▲ 407 |
| 5 | 神奈川県 | 2,893 | 群馬県 | 3,343 | 千葉県 | ▲ 149 |

図4 年齢(5歳階級)別県外転入・転出者数



(4) 年齢別人口

令和2（2020）年10月1日現在の県人口を年齢3区分別にみると、15歳未満人口が230,221人（対前年5,012人減）、15～64歳人口が1,133,808人（対前年13,336人減）、65歳以上人口が558,651人（対前年8,126人増）であった（年齢不詳9,411人を除く）。

これを構成比でみると、15歳未満人口12.0%（対前年0.2ポイント減）、15～64歳人口59.0%（対前年0.3ポイント減）、65歳以上人口29.1%（対前年0.6ポイント増）となり、昭和61（1986）年の年齢別調査開始以来、15歳未満人口の割合は減少を、65歳以上人口の割合は増加を続けている。また、75歳以上人口の割合は14.0%（対前年0.2ポイント増）であった。（図5、統計表第9・12表）

なお、全国の年齢3区分別人口構成比は、令和2（2020）年10月1日現在で15歳未満人口11.9%、15～64歳人口59.3%、65歳以上人口28.7%、75歳以上人口14.9%であった。（総務省統計局「人口推計」令和2（2020）年10月1日現在（概算値））

人口の対前年増減率を年齢5歳階級別にみると、増減率が最も高かったのは70～74歳の8.4%で、最も低かったのは65～69歳の▲4.2%であった。（表4、統計表第10表）

図5 年齢3区分別人口構成比の推移

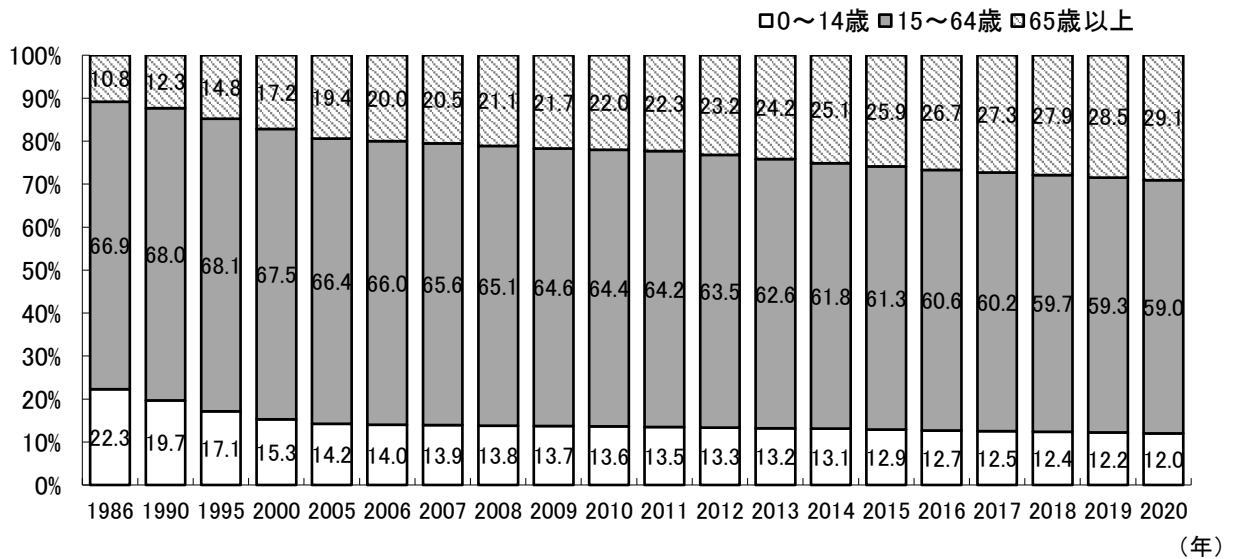


表4 年齢5歳階級別人口の対前年増減数・増減率

(単位: 人、%)

| 年齢 | 10月1日現在人口 | | 総人口※に占める割合 | | 対前年増減数 | 対前年増減率 |
|-------|------------|------------|------------|------------|---------|--------|
| | 令和2年(2020) | 令和元年(2019) | 令和2年(2020) | 令和元年(2019) | | |
| 0～4歳 | 69,077 | 71,435 | 3.6 | 3.7 | ▲ 2,358 | ▲ 3.3 |
| 5～9 | 76,738 | 78,266 | 4.0 | 4.0 | ▲ 1,528 | ▲ 2.0 |
| 10～14 | 84,406 | 85,532 | 4.4 | 4.4 | ▲ 1,126 | ▲ 1.3 |
| 15～19 | 90,481 | 91,960 | 4.7 | 4.8 | ▲ 1,479 | ▲ 1.6 |
| 20～24 | 88,697 | 87,238 | 4.6 | 4.5 | 1,459 | 1.7 |
| 25～29 | 83,389 | 86,606 | 4.3 | 4.5 | ▲ 3,217 | ▲ 3.7 |
| 30～34 | 99,506 | 103,468 | 5.2 | 5.4 | ▲ 3,962 | ▲ 3.8 |
| 35～39 | 115,839 | 118,413 | 6.0 | 6.1 | ▲ 2,574 | ▲ 2.2 |
| 40～44 | 132,303 | 136,371 | 6.9 | 7.1 | ▲ 4,068 | ▲ 3.0 |
| 45～49 | 149,915 | 148,599 | 7.8 | 7.7 | 1,316 | 0.9 |
| 50～54 | 129,132 | 127,286 | 6.7 | 6.6 | 1,846 | 1.5 |
| 55～59 | 120,039 | 118,932 | 6.2 | 6.2 | 1,107 | 0.9 |
| 60～64 | 124,507 | 128,271 | 6.5 | 6.6 | ▲ 3,764 | ▲ 2.9 |
| 65～69 | 142,622 | 148,886 | 7.4 | 7.7 | ▲ 6,264 | ▲ 4.2 |
| 70～74 | 146,677 | 135,328 | 7.6 | 7.0 | 11,349 | 8.4 |
| 75～79 | 103,958 | 105,595 | 5.4 | 5.5 | ▲ 1,637 | ▲ 1.6 |
| 80～84 | 76,503 | 74,826 | 4.0 | 3.9 | 1,677 | 2.2 |
| 85歳以上 | 88,891 | 85,890 | 4.6 | 4.4 | 3,001 | 3.5 |

※年齢不詳人口を除く

(5) 平均年齢

令和2(2020)年10月1日現在の県人口の平均年齢は47.7歳で、令和元(2019)年10月1日現在(47.4歳)に比べ0.3歳上昇し、年齢別調査開始以来最も高くなった。(統計表第9表-2・12表)

(6) 人口性比

令和2(2020)年10月1日現在の県人口の人口性比(女性100人に対する男性の数の割合)は99.8で、令和元(2019)年10月1日現在(99.7)に比べ0.1上昇した。(統計表第9表-2・12表)

2 市町の状況

(1) 人口

市町別の対前年人口増減についてみると、2市で増加し、12市11町で減少した。増減率が最も高いのはさくら市(0.13%)、最も低いのは塩谷町(▲2.66%)であった。

対前年人口増減について動態別にみると、自然動態では4年連続ですべての市町が減少した。社会動態では7市3町で増加、7市8町で減少した。(図6、図7、表5、統計表第3表)

図6 市町別対前年人口増減率分布図

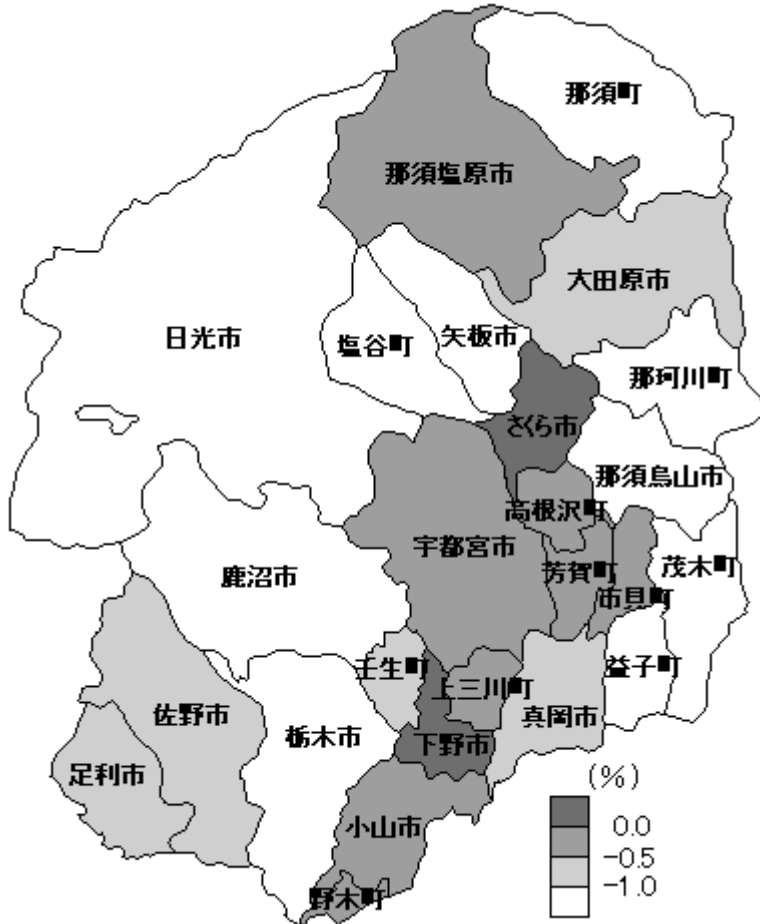
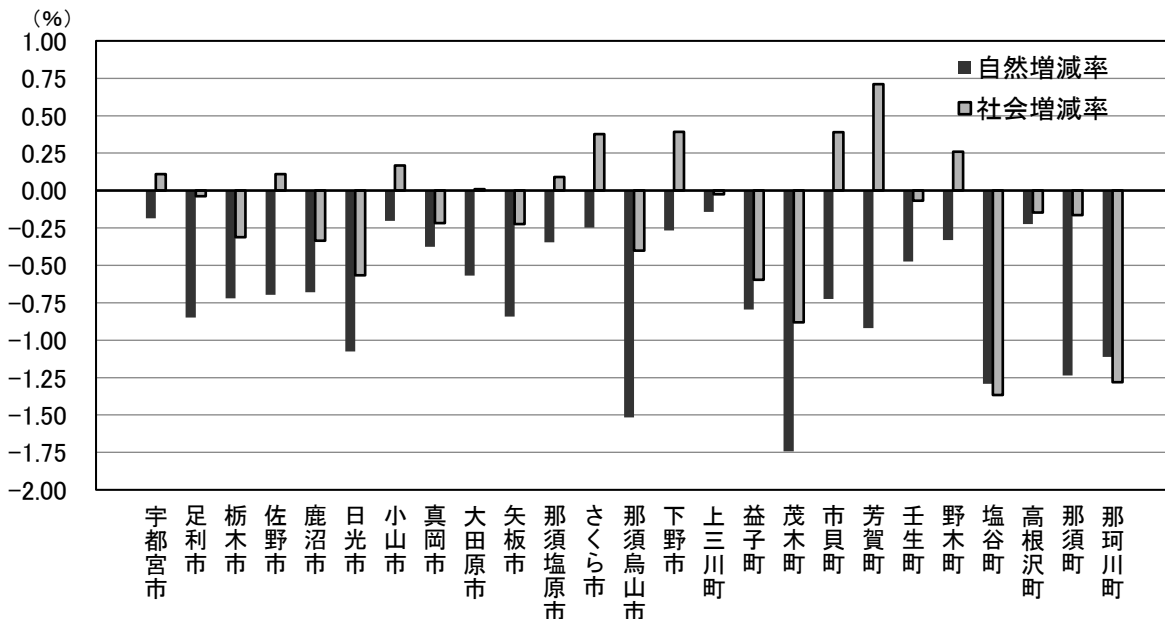


表5 対前年人口増減率順位

| 順位 | 上位5市町 | |
|----|-------|--------|
| | 市町名 | 増減率(%) |
| 1 | さくら市 | 0.13 |
| 2 | 下野市 | 0.13 |
| 3 | 小山市 | ▲0.03 |
| 4 | 野木町 | ▲0.07 |
| 5 | 宇都宮市 | ▲0.08 |
| 順位 | 下位5市町 | |
| | 市町名 | 増減率(%) |
| 1 | 塩谷町 | ▲2.66 |
| 2 | 茂木町 | ▲2.62 |
| 3 | 那珂川町 | ▲2.39 |
| 4 | 那須烏山市 | ▲1.92 |
| 5 | 日光市 | ▲1.64 |

注)順位は、数値の大きい順に付した。

図7 市町別動態別対前年人口増減率



(2) 年齢別人口

市町別に年齢3区分別人口の割合をみると、15歳未満人口の割合が最も高いのは、さくら市(13.6%)、最も低いのは茂木町(8.5%)であった。

15～64歳人口の割合が最も高いのは上三川町(63.2%)、最も低いのは茂木町(48.5%)であった。また、全25市町で前年に比べ割合が低下した。

65歳以上人口の割合が最も高いのは茂木町(43.0%)、最も低いのは上三川町(23.5%)であった。また、全25市町で前年に比べ割合が上昇した。(図8、図9、表6、統計表第9表-2)

図8 市町別65歳以上人口割合分布図

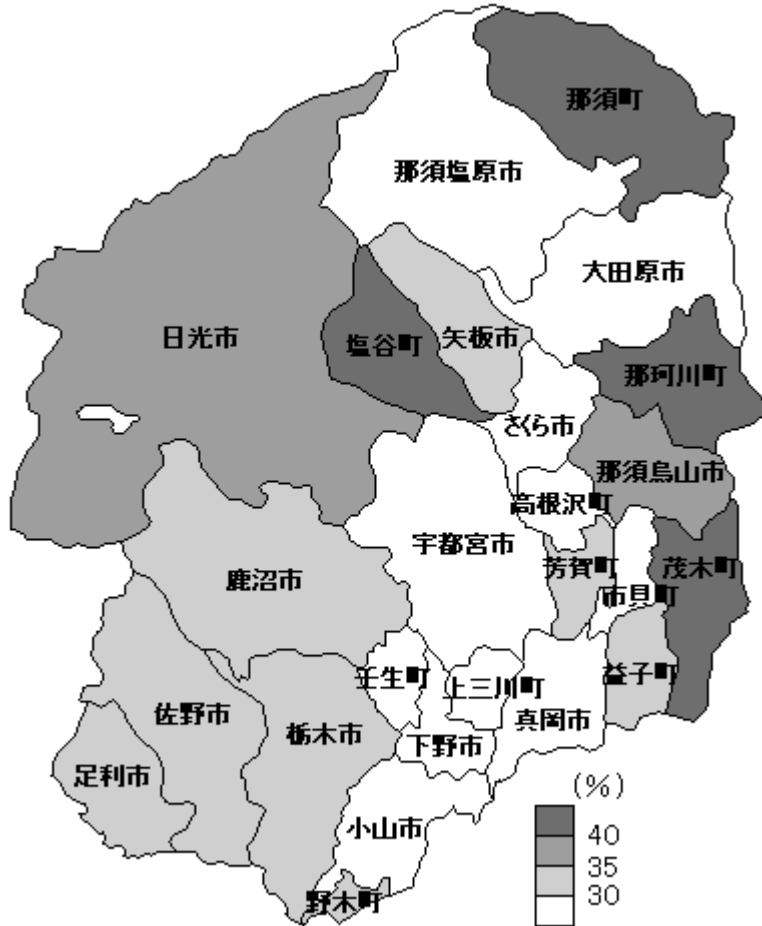


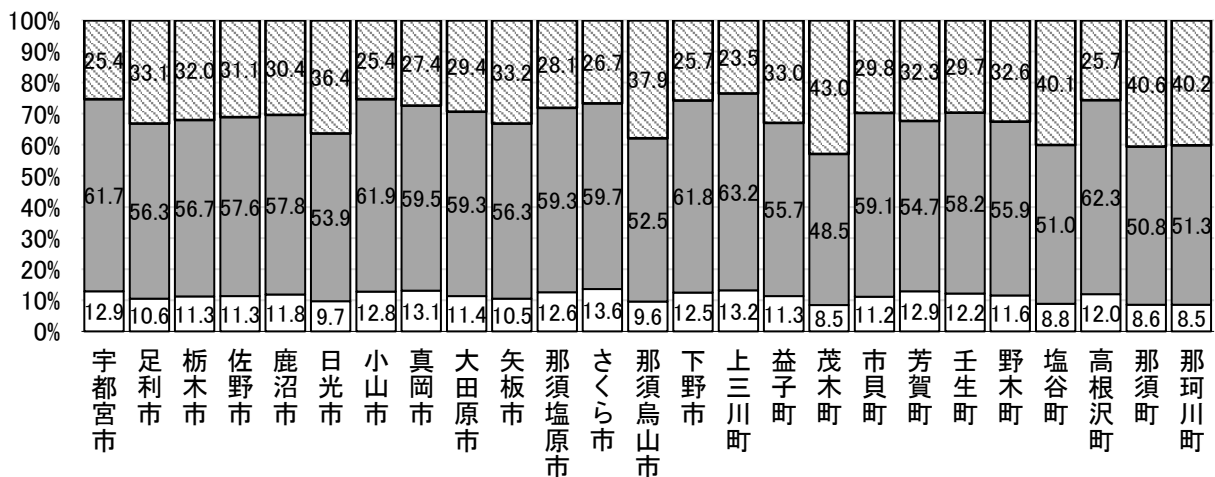
表6 65歳以上人口割合順位

| 順位 | 上位5市町 | |
|----|-------|-------|
| | 市町名 | 割合(%) |
| 1 | 茂木町 | 43.0 |
| 2 | 那須町 | 40.6 |
| 3 | 那珂川町 | 40.2 |
| 4 | 塩谷町 | 40.1 |
| 5 | 那須烏山市 | 37.9 |
| 順位 | 下位5市町 | |
| | 市町名 | 割合(%) |
| 1 | 上三川町 | 23.5 |
| 2 | 小山市 | 25.4 |
| 3 | 宇都宮市 | 25.4 |
| 4 | 高根沢町 | 25.7 |
| 5 | 下野市 | 25.7 |

(注)順位は、数値の大きい順に付した。

図9 市町別年齢3区分別人口構成比

□0～14歳 □15～64歳 □65歳以上



(3) 県内移動（市町間の社会動態）

県内移動について市町別に転出入差をみると、6市4町で転入超過、8市7町で転出超過となった。（表7、統計表第3表）

県内移動者23,984人の移動後の住所地についてみると、宇都宮市が5,807人（移動者の24.2%）と最も多く、次いで小山市が2,071人（8.6%）、栃木市が1,781人（7.4%）であった。（統計表第6表）

表7 県内移動の転出入差の大きい市町

| 順位 | 転入超過 | | 転出超過 | |
|----|------|------|------|------|
| 1 | 宇都宮市 | 893人 | 日光市 | 322人 |
| 2 | 下野市 | 271人 | 那須町 | 199人 |
| 3 | 芳賀町 | 93人 | 那珂川町 | 126人 |
| 4 | 市貝町 | 54人 | 高根沢町 | 111人 |
| 5 | さくら市 | 43人 | 塩谷町 | 106人 |

第2世帯

(1) 世帯数

令和2(2020)年10月1日現在の本県の世帯数は802,576世帯で、令和元(2019)年10月1日現在(795,152世帯)と比べると7,424世帯の増加(対前年増減率0.93%)となった。

市町別に対前年増減率をみると、最も高いのはさくら市(2.26%)で、最も低いのは那須烏山市(▲0.70%)であった。(図10、統計表第1・3表)

(2) 世帯人員

令和2(2020)年10月1日現在の本県における1世帯あたりの平均人員は2.41人で、令和元(2019)年10月1日現在(2.44人)と比べると0.03人の減少となった。

1世帯あたり人員を市町別にみると、最も多いのは芳賀町(2.81人)で、最も少ないのは宇都宮市(2.26人)であった。(図10、統計表第1・3表)

図10 世帯数と1世帯あたり平均人員の推移

